

OPINION

豊かな心育つ親子体験

提言

子育て支援センター「ぐんぐん」は、2012年に開設され、現在は村山市から指定管理を受けた社会福祉法人敬愛信の会が運営する「村山市はやま認定こども園」内に開設されている施設です。同センターでは、年間を通して利用者へ「育つ喜び・育てる喜び」を実感してもらえような「まなび」や「ふれあい」の場を提供しています。

さらに本年度は、「体験」の要素を加え、「親子共育」を意識し「チャレンジ広場」と題した新事業もスタートさせました。普段家庭ではできない体験の機会を提供することを狙いとし、これまでひまわり迷路の種まきや野菜

社会福祉法人敬愛信の会
村山市子育て支援センター「ぐんぐん」センター長



つちや つねよし
土屋 常義

の苗植え、園庭の草花を使った万華鏡づくりや手打ちうどんづくりなどを実施しています。

先月は、春に村山市シルバ―人材センターの会員が管理する農園(さくらさくらファーム)に植えたサツマイモを、会員のアドバイザーを受けながら親子で収穫する体験をしました。

親子でつるを引っ張ると赤く大きく育ったサツマイモがごろごろと出てきます。両手で持てないほどの大きい芋に、歓声を上げながら喜ぶ親子の姿をとてもほほ笑ましく感じました。

子どもの発育を示す「スキヤモンの発達曲線」では、人間の五感に関する感覚機能は乳幼児期にほぼ完成するとい

われ、この時期の体験は、心豊かな人生の大切な土台になると考えられています。中でも、親子で楽しみを共有(感動共有)する体験は、子ども

の感受性を高め、親や大人に見守られている安心感ほ子ども自尊感情(自分を肯定的に受け止めることのできる感覚)を育みます。

しかし、体験の企画には多くの手間が必要で、「ぐんぐん」の事業は、地域の方々の物心両面にわたる多くの支援に支えられ実現していると言

つても過言ではありません。この地域に根付いている「地域の子どもは地域で育てる」

(人の温かさや豊かな自然・文化など)を存分に感じさせてくれるものになっていきます。

「笑顔いっぱい・元気いっぱい・あいの中で 瞳輝く子ども」これは「ぐんぐん」を運営する社会福祉法人敬愛信の会の理念です。

心の基礎が育つ乳幼児期に、親はもちろん、地域の方の温かな「あい」に包まれながら育つ環境を整備したり、子育て世代の親同士がつながる場を用意したりすること

は、子育て支援に関わる私たちの役割であると思います。「ぐんぐん」ではこれから

も、子どもの健やかな成長を願い、親子が共に育ち合える体験の場づくり、人の温かさ

といわれます。その限られた時間を大切に、「共に学び・共に笑い・共に育ち合う」そんな子育てが実現できるように、「ぐんぐん」をはじめ、県内各市町村にあるすべての子育て支援センターでは、それぞれの施設の特性を生かした各種イベントを数多く展開しています。

親子支援に関わる私たちは、子育て家庭の応援団となり、時にはそと背中を押す「後方支援者」、時には一緒に並んで子どもの成長を見守っていく「伴走支援者」でありたいと考えています。

ぜひ、各子育て支援センターで創意工夫をしている「親子の笑顔を育む活動」に関心を持っていただき、足を運んでみてください。そこでは支援スタッフの「あい」あふれる笑顔が皆さんをお待ちしていることでしょう。

(村山市在住)

「まなび」「ふれあい」提供 ■ 地域の思いに支えられ